

# あすなと高岡

第 15 号



第32回北信越高等学校選手権水泳競技大会

## 第55回 国民体育大会 リハーサル大会開催!!

平成11年度  
全日本実業団  
ソフトテニス  
選手権大会



第34回全国都道府県対抗  
自転車競技大会



第69回全日本アマチュアボクシング選手権大会



第7回  
北陸ジュニア選手権大会



第42回全日本社会人バドミントン選手権大会



高松宮賜杯第43回全日本軟式野球大会



第35回全国社会人サッカー選手権大会

# 役員研修会

とき 平成十一年十二月  
ところ 雨晴温泉

恒例の高岡市体育協会の研修会が12月4日(土)に雨晴温泉のホールにおいて加盟団体の役員80名余りの出席のもと開催された。今回は講師に塩谷建設株式会社柔道部総監督伊東宏氏を迎え「2000年とやま国体・優勝をめざして」をテーマに講演をいただいた。

## 〈講演要旨〉

県内選手の底辺の拡大とレベルアップを図るために、全日本クラスの選手を招聘して、毎年行われている塩谷合宿は、ハードできびしいものがある。おかげで成績も着実に上昇し、フランス国際柔道大会に出場した優秀選手も輩出している。

一方、スポーツにつきものの思わぬ怪我は、その分、他の選手の自覚と役割とがんばりが、よいチームワークを作り、本年の全日本女子柔道団体対抗大会で、富山県チームは見事優勝出来た。

今年は、会社の後援会も発足し、企業あげてのよき理解と協力が、選手一人ひとりを勇気づけ、心の支えとなり、更なる闘志につながる

体制は、ファミリー的、且つ、アットホーム的で理想である。又、本年の富山国体は、試合が一分長くなる。充分な練習量、スタミナ、相手の研究、しかも相手もそれ以上に研究してくるが、熊本国体の二位をはずみに、是非とも富山国体の優勝へ最後まであきらめず、精神力でがんばると力強い結びの言葉であった。



## 〈小・中・高校生の表彰〉

研修会の席上において、平成十一年全国大会等の上位入賞者が高

岡市体育協会より表彰される。

### ◆小学校

○高武館柔道スポーツ少年団

全日本少年武道練成大会 三位

○内尾 奈々(万葉小 五年)

第十二回全国少年フェンシング大会小学生女子の部 六位

### ◆中学校

○武内 真李(芳野中三年)

日本ジュニア室内陸上競技大会女子走り高跳び 二位

### ◆高等学校

○谷井 孝行(高岡向陵高二)

第五十四回国民体育大会少年男子5000m競歩 優勝

第一回世界ユース陸上選手権大会男子一万m競歩 三位

○吉田 圭佑(高岡第一高一)

第五十四回国民体育大会水泳競技混合男子200mリレー 優勝

○桶谷 忠司(小杉高二)

第三十一回全日本ジュニア柔道体重別選手権大会個人100kg級 優勝

○中橋 裕樹(高商高二)

JOC杯全日本ジュニアレスリング選手権大会 フリースタイル54kg級 優勝

○吉川将太郎(高商高二)

ング選手権大会  
グレコローマン76kg級 優勝  
○門島 義洋(高商高二)

第五十四回国民体育大会レスリング競技  
少年男子グレコローマン49kg級 優勝  
○金 智恩(高西高二)

全日本ジュニアソフトテニス選手権大会  
ジュニア一部女子シングルス 優勝  
○後谷 梨沙(新湊高二)

○上野 江美(新湊高二)

全国高校選抜ヨット競技選手権大会  
女子FJ級 優勝  
○内河 利隆(小杉高二)

平成十一年度全国高校総合体育大会  
柔道男子団体 二位  
○竹澤 浩司(氷見高二)

第五十四回国民体育大会自転車競技  
少年男子4000m 二位  
○下崎 和也(高商高二)

◆ ◆ ◆  
紹介  
◆ ◆ ◆

## 夢は箱根

高岡市立国吉中学校

三年 岡崎朋哉



小学校四年生  
ころから中学生  
に交じって走り  
始めた。中学に  
入学後は、陸上

部はないので、文化部に籍をおきながら、走るのが好きな者数名で練習を積み重ねてきた。

県中学駅伝や都市対抗駅伝大会で区間賞をとったり、都道府県対抗クロスカントリーや都道府県駅伝競走大会の代表選手に選ばれたりして活躍している。

彼がここまで成長してきたのは、自分の可能性に対し絶えず挑戦し続けたからである。先には箱根駅伝に対する強いあこがれがある。

「夢は箱根」を胸に、楽しく走り続けたいと意欲を燃やしている。進学後は今までと違った環境の中で精進し、その才能をさらに開花させることを期待したい。

## 加盟団体紹介 ②⑦

## 高岡市パワーリフティング協会

高岡市パワーリフティング協会は、高岡トレーニングクラブ（長慶寺SRホーム）、三協アルミトレーニングクラブなどのバーベルトレーニング愛好者が集まり、昭和58年10月に設立されました。

パワーリフティングはアメリカで生まれ、人間の絶対筋力を競うスポーツとしてすばらしい勢いで発展、普及しています。

競技内容は、スクワット、ベンチプレス、デッドリフトの3種目で重量を競い合いそのトータル重量で順位が決定するものです。

なお、3種目のうち、最も人気のあるベンチプレスだけを競う大会もあります。

設立の翌年、昭和59年6月に第1回高岡市パワーリフティング選手権大会を三協アルミ記念会館で開催。平成11年10月で市選手権大会は16回目を数えました。

その後、昭和61年4月高岡市体育協会へ加盟。この年の7月

第39回市体に参加し、第40回大会から現在まで会場を国立高岡短期大学体育館で開催しています。

平成8年5月、当協会にとって記念すべき第14回全日本マスターズパワーリフティング選手権大会を三協アルミスポートセンターで開催。全国から多数の選手を迎えての大規模な大会は、創立以来初めてのことでしたが、市や市体協をはじめ多数の協賛をいただき、県協会、市協会役員及び関係者のボランティアによって運営できた。この経験は、関係者にとり運営面でも競技面でも大きな刺激と励みになりました。

谷内政宏（リースフジヤ）は地元高岡での平成8年全日本マスターズの40才以上、60kg級で優勝。



平成9年、10年と三連覇を達成し、世界マスターズへ2回出場。滝田悟（立山アルミ）は平成9年全日本マスターズの50才以上、75kg級で優勝。平成10年3位、平成11年2位と着実に上位入賞。

山本智広（セコム北陸）は現在活動拠点を富山市に移しているが、高岡向陵高校時代から注目され、全日本ジュニア大会10kg級で三連覇。三年連続で世界大会に出場。また、エアーズ所属の森河真由美、大坪正吉、荒谷紀行の3選手が平成11年全日本ベンチプレス大会に出場。森河選手は女子48kg級で4位入賞を果たしている。

当協会の状況は、全国レベルの選手は若干みられるが、底辺の拡充という点では今一步という所があります。健康、体力向上を目的にバーベルトレーニングをしている人へ、大会や講習会等の参加を呼びかけ、一方で、チャンピオンを目指すトップレベルの選手を育成するといふ両面から協会の活性化を図っていきたくと考えています。

# 強化策着々と頑張る企業チーム

## 3

「とやま国体」

優勝を目指して

三協アルミ株式会社

### バドミントン部

★創設にあたって

バドミントン部は、昭和60年2月、中沖知事の強い要請に当時の沖社長が承諾して結成された。チーム結成に当たっては、県内のバドミントン関係者はもとより、様々な人々のご尽力のもと、地元出身の優秀な選手の獲得に全国を駆け回って優秀な選手を確保し、監督・コーチ・選手5名によりスタートする。

★創部15年の歴史と戦績

チームが結成された昭和60年、全日本実業団大会に初出場し、日本リーグ入替戦で北国銀行・トヨタに勝ち、日本リーグ一部入りを果たす。

それから14年の歳月を経て念願の日本リーグ優勝を勝ち取る。その間4年連続2位があり、あと一步のところまで涙を飲んできただけに喜びもひとしおのものがあつたようだ。また国体でも優勝4回、準優勝1回と、毎年上位入賞を果たし成果をだしている。



バドミントン日本リーグ'98優勝

個人の戦績では、創部時の中心選手今川、平成に入って佐々木・松田が日本代表メンバーに選ばれるなど、国内に止まらず世界の舞台で活躍している。

★会社の理解と地域貢献

これらの選手の活躍も、会社の深い理解なしでは成り立っていかない。荒井会長・竹平社長、そして選手が所属している職場の理解で、平成8年に完成した三協アルミスポーツセンター「サンアリーナ」で汗を流している。

また重要な試合の一カ月前には一日練習・海外遠征・国内遠征を実施してレベルアップを図っている。目標は日本一のチームづくりと世界に出て活躍できる選手の育成である。二〇〇〇年とやま国体での優勝を目標にチーム一丸となつて練習できる環境は会社の暖かい支援と深い理解によるもの以外なものでもない。

また地域貢献としては、ジュニア選手層の拡大と競技力向上を目的に、県協会とタイアップして平成2年から開催している「トライアングルカップジュニア大会」に出場した選手から、現在、高校・大学・社会人大会などで数多く活躍していることも見逃せない。その他にも、市協会のもとでジュニアバドミントン教室を開催するなど、ジュニアの育成、バドミントンの普及振興に努め地域に貢献している。

### 立山アルミ株式会社

### ハンドボール部

★創部からのモットー

ハンドボール部は、平成6年3月「企業のシンボル」としてハンドボールを育成するとともに、会社・社員・地域の活性化に貢献し得る真の企業チームを作り上げることを基礎理念として創部された。企業イメージを高揚させるためにも、やはり全国大会で好成績を残すことにより『立山アルミ』ハ

「ハンドボール」となるような企業文化の創造を図ること。また、選手たちの職場の配属は、一部署に固めず、たくさんの方の社員と仕事を通じて親交を深め、社員が一体となって応援し、社員から募った応援団も発足させ、後援会からも支援できる体制を作り、社内にも強力な『和』を育てること。さらには、ハンドボール競技を通じて地域スポーツの振興。ジュニア層の指導



日本リーグの熱戦

を積極的に行い、ハンドボール人口の底辺の拡大に努め、地域社会への貢献を図ること。これらを部のモットーとして掲げ、活動をスタートしている。

★活動の歩み

創部に当たり、全国大会で活躍

した高校生6名、短大生2名、大学生1名の9名をまずスカウトしハンドボールチームとしては、少人数であることと短期間でのレベルアップを見込み、オリンピックなどで上位に常に進出している韓国ナショナルチームの2選手も補強し、11名での初陣となった。

新チームながら過酷ともいわれる日々の練習の成果を試す初挑戦となった日本ハンドボールリーグは、2部からのスタートとなり、強豪相手に10勝1敗1分で、初出場・初優勝し、1部昇格となる幸先のよいスタートとなる。

しかし、次年度に挑んだ強豪が揃う1部勢との戦いは、チームに試練を与えた。思うようにハンドボールができず、トップレベルの厳しさ、真のトップチームとしての意識の問題、たくさんの方の学ぶべきことを体で教えられる。

創部から5年で、日本リーグ1部で活躍していることは、会社の深い理解とチームの努力によるものであり、近年における好成績は二〇〇〇年とやま国体での優勝が期待される。

第54回熊本国体を

振り返って

富山県水泳競技成年男子

監督 朝日 武司

9月11日から熊本市で開催された第54回夏季国体の水泳競技競泳成年男子監督として参加しました。9月9日に参加選手全員が県総合体育センターに集合し、調整練習および全体ミーティングが行われた。午後、空路にて熊本に向かった。

9月10日、大会会場で調整練習を行い、翌日の大会に備えた。

大会初日には、少年男子と成年男子30才以上の予選が行われ、少年男子A400m自由形に本県期待の荒瀬洋太が出場し、見事1位で決勝進出を決めた。またその他にも個人種目で4名、リレー種目で1つが決勝進出を決める好スタートを切った。

大会2日目は、前日に行われた種目の決勝と、その他の予選が行われ、荒瀬選手の優勝をはじめ、優勝2名、3位1名、5位1名が入賞した。また、翌日の決勝には個人種目2名、リレー種目で3つの決勝進出をきめた。

大会三日目は、個人種目での入賞は無かったものの成年男子30才以上200mメドレーリレーで3位、混合男子200mリレーでは大会新記録で優勝をなし遂げた。このなかで吉田圭佑選手（高一高1年）が、自己記録を2秒近く短縮する力泳が光った。

大会最終日には、成年男子100m自由形で伊藤俊介選手が第一人者の貫禄をみせ優勝し、同100m背泳ぎでは大石隆文選手（高岡市スポーツ振興事業団）は予選一位通過するものの決勝戦で振るわず4位入賞に終わった。最後に高岡市から少年女子に島美彩（高商高2年）、林敦子（牧野中3年）が出場した。決勝進出こそ成らなかったが積極的なレースをし、今後につながるレースであった。



## 国体の思い出

## 第13回秋季大会に参加して

陸上競技協会

竹本博司

県民が待ち望んだ第13回秋季国民体育大会の開会式は、うす雲に時々雨が混じる中で小学生のマスゲームが行われた。そして、前回の静岡からリレーされた聖火が聖火台にうつされ、やがて天皇・皇后両陛下が会場に



お入りになり、5日間にわたる競技の幕は切っておとされたのである。

私の思い出は最終日の閉会式前に行った800mリレーのオープン競技に参加した事です。

これは、富山・富商・高商・高岡工芸・新湊・伏木の各高校の県内代表6チームによるもので、我々の伏木高校は、高校選手権等で3位、北陸3県では5位の入賞であったが、県内で富山・富商を抜くことができず、これが最後の挑戦になった。

最終日はからりと晴れあがり、陸上競技場のスタンドをうめつくした観客の前で、高校生として最後の走りに胸が熱くなった。

口は乾くし、足は何か宙に浮いているようであった。自分で納得のいくよう、力一杯、悔いの残らないよう走ろうと思ったら、肩の力が抜けたようであった。

スタートの号砲がなり一斉に飛び出した。セパレートコースのため順位は判らず、二走の私はバト

ンを受け取りながら、いつもと違ってトップにいるのではと思いつながら4コーナーをすぎるところでスツと息をすった。「これは今まで経験しなかった余裕のあるレース運びであった。」このままで頑張れば優勝できると思いい、三走にバトンを渡した。結果は僅かの差で優勝は出来なかった。

優勝は富山高校、次勝は伏木高校(宮袋・竹本・矢ノ方・竹林)で高岡工芸高校が3位だった。

初めて県内で2位になった。オープン競技に参加させてもらい、ましてや国体で2位の賞状をもらい嬉しかった。

私一人では成しえない感慨と想い出をくれた当時の陸上部員に感謝申し上げます。

富山県民が願いをこめて迎えた第13回国民体育大会は、いつまでも消えることのない楽しい自慢の思い出です。

## 高岡市の民泊

## 「ガンバツ亭」について

2000年とやま国体の秋季大会において、ソフトテニス、バドミントン競技の少年男女のチームを民泊で対応するため、一昨年の秋に高岡市連合自治会長を会長とする民泊「ガンバツ亭」推進協議会が設置されました。この協議会において民泊家庭・施設の募集の取りまとめと確保調整に取り組んでいたが、昨年10月には、委嘱状交付式を開催し正式に111の一般家庭・施設を決定させていたできました。

民泊「ガンバツ亭」では着々と準備が進められており、昨年11月に高岡市生活改善推進協議会のご協力を得て、

59名の標準献立地区指導員を委嘱させていただき、校下・地区毎に標準献立講習会が順次、開催されています。

高岡市民泊「ガンバツ亭」委嘱状交付式



《スポーツドクター・アドバイス》

# 肩のスポーツ障害について

高岡市民病院整形外科 山田 均

スポーツによる肩の障害は、近年の診断技術の進歩により多種多様の病態があることがわかってきました。最も一般的なものは使い過ぎによる腱板の障害ですが、その他繰り返し脱臼をおこす不安定な状況、使い過ぎによる関節周囲の軟骨の障害（関節唇損傷）などがあります。今回はこのうち腱板の障害について説明したいと思います。

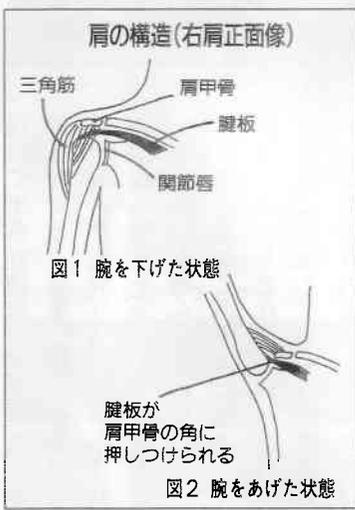
この障害は肘が肩より高くなる動作の多い種目で高頻度で発生します。野球でボールを投げる動作はもちろんですが、陸上の槍投げ、バレーボールのアタック、水泳のクロールでも同様の障害を発生します。

肩には二層の筋肉があつて、外側は三角筋に代表されるアウトERMAS（outer muscle）であり、内側は腱板（inner muscle）です。（図1）。傷害されるのはこのうちの内側にある筋肉、インナーマッスルです。この筋肉は肩甲骨と上腕骨の間の狭い空間にあるため、肘を高く上げる動作の際に筋肉が肩甲骨の角に押し付けられることになりま（図2）。したがって、この動作を頻回に行いますと、インナーマッスルの表面がこすれて炎症をおこし、はれてきます。この状態が腱板炎といわれるものです。この時期に肩を休めれば筋肉もほ元通りに回復しますが、無理をして続けると筋肉の一部

が断裂したり出血したりして筋肉そのものが硬く弾力性のない状態になってしまいます。そうすると強い衝撃が加わったときに一気に断裂してしまいます。これを腱板断裂といいます。こうなると軽い運動でも痛みが出現するようになり、十分な練習ができなくなってしまう。

原因としては個々の体力からみて運動量が多すぎることが一因ですが、誤ったフォームで練習を続ける（手投げになつてい、クロールの時に体のローリングが少ないなど）、肩の周りの筋肉のストレッチ不足なども十分考えられます。

肩に痛みを感じたら、まず練習を休むか練習量を軽くすること。肩の状態がどの程度なのか、専門的な検査をうける。病状にあった練習量、方法を指導者とともに考える。また一方では原因についてもよく考え対策を講じる。日頃からインナーマッスルのトレーニングや練習後のストレッチング、アイシングなどのケアを心がけ、再発進行防止に努めることが大切でしょう。



12年度に入ってから、市内各校・地区毎に設置されます民泊「ガンバツ亭」協力会に対し、幹旋するリース物品の照会や衛生講習会・2回目的の献立講習会の開催、民泊手引書による説明会を予定しています。

本市が実施します民泊「ガンバツ亭」は、全国から集う大会参加者と地域の方々の心のふれあいを通じて、高岡に対する理解を大いに深めていただくとともに、地域における連帯感を一層深めていただく、絶好の機会と考えています。

市といたしましても、民泊「ガンバツ亭」が選手・監督と民泊家庭等の皆様方に、いつまでも心に残る思い出深いものとなりますよう、受け入れ準備に全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えています。

今後とも民泊「ガンバツ亭」推進協議会や関係団体・機関との連携はもとより、市民の皆様方と一体となって、選手・監督の民泊受入準備に万全を期してまいりたいと考えています。

スポーツ人脈 (2)

高岡市弓道協会

川田行雄氏の

弓道にかける情熱

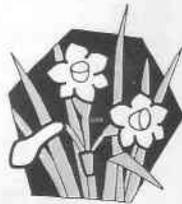
川田行雄氏が弓道を始めたのは、昭和39年である。当時油絵を描いていたが筆をおき、弓道に入門した。健康のために何かスポーツを考えたとき、ゴルフ、テニスなどいろいろあったが医師として、

時間的に一人でもできると弓道を選んだ。当時会長であった佐藤関太郎氏に手ほどきを受け、昭和46年より会長となる。現動物園拡張のため、道場が移転することになり、元市助役であった沢井信一氏の尽力と市長、射水神社の絶大な理解と協力の下に現在の場所が確定。川田氏が私財を提供し、昭和52年現市営弓道場が完成した。当時県内で初めての立派な道場であったが会員は十名余りの小世帯に過ぎなかった。そこで氏はこの



立派な道場を高岡市民に愛される道場とするため、市民500人が一度でもよいから弓を手にするよくな道場にしたいと目標をたてた、しかしそれも十年経ずしてその目標を達成してしまい、うれしい誤算となった。現在では年間の利用者延べ2万6千名余にも達し約百名余の一般会員のほかに高校2校、大学2校が加わり、練習時間の調整に頭を悩ましている。また道場建設のとき当時の体育保健課長が、本丸広場の芝生の余りを融

通して下さり綺麗な芝生の矢道ができたこと、道場の屋根を葺いた屋根職人が矢取り道の柱に手作りの銅版の飾りを寄付してくれたことなど誰にも知られていないが、多くの善意がこの道場に詰まっている、それを忘れてはいけな、と静に話される。忙しい診療時間を割いて毎日のように的に向かい、会員を励まし指導される氏の姿は弓道の中で一際輝いて見える。



賛助会費について

このたび、当協会の賛助会員の趣旨をご理解いただき、納入していただきました会員の皆様に深く感謝申し上げます。

いよいよ2000年とやま国体本番を迎え、高岡市関係選手の一層の育成強化等のため、ひきつづき平成十二年度もご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成12年度前期の主な行事(予定)

- 4月19日 医科学委員会
- 4月23日 第46回前田杯ソフトテニス大会(中学・一般の部)
- 4月29日 第46回前田杯バレーボール大会(中学の部)
- 5月12日 体育功労者表彰式・評議員会
- 6月21日 第9回スポーツ医科学シンポジウム
- 7月8〜9日 第53回高岡市民体育大会(基準日)
- 7月16日 第53回高岡市民体育大会総合開会式
- 8月5〜7日 第53回県民体育大会(氷見市)
- 未定 第46回前田杯バレーボール大会(一般の部)

編集◆後◆記

二〇〇〇年を迎え、とやま国体開催年となりました。今回は国体に関する記事を多く取り入れました。

国体成功のために体協・競技団体の連携を一層深め、運営や競技力向上に努めたいものです。

そのためにも、情報や話題の提供をお願いします。

スポーツ人脈 (2)

高岡市弓道協会

川田行雄氏の

弓道にかける情熱

川田行雄氏が弓道を始めたのは、昭和39年である。当時油絵を描いていたが筆をおき、弓道に入門した。健康のために何かスポーツを考えたとき、ゴルフ、テニスなどいろいろあったが医師として、時間的に一人でもできると弓道を選んだ。当時会長であった佐藤関太郎氏に手ほどきを受け、昭和46年より会長となる。現動物園拡張のため、道場が移転することになり、元市助役であった沢井信一氏の尽力と市長、射水神社の絶大な理解と協力の下に現在の場所が確定。川田氏が私財を提供し、昭和52年現市営弓道場が完成した。当時県内で初めての立派な道場であったが会員は十名余りの小世帯に過ぎなかった。そこで氏はこの



立派な道場を高岡市民に愛される道場とするため、市民500人が一度でもよいから弓を手にするような道場にしたいと目標をたてた、しかしそれも十年経ずしてその目標を達成してしまい、うれしい誤算となった。現在では年間の利用者は延べ2万6千名余にも達し約百名余の一般会員のほかに高校2校、大学2校が加わり、練習時間の調整に頭を悩ましている。また道場建設のとき当時の体育保健課長が、本丸広場の芝生の余りを融

通して下さり綺麗な芝生の矢道ができたこと、道場の屋根を葺いた屋根職人が矢取り道の柱に手作りの銅版の飾りを寄付してくれたことなど誰にも知られていないが、多くの善意がこの道場に詰まっている、それを忘れてはいけな、と静に話される。忙しい診療時間を割いて毎日のように的に向かい、会員を励まし指導される氏の姿は弓道の中で一際輝いて見える。



賛助会費について

このたび、当協会の賛助会員の趣旨をご理解いただき、納入していただきました会員の皆様に深く感謝申し上げます。

いよいよ2000年とやま国体本番を迎え、高岡市関係選手の一層の育成強化等のため、ひきつづき平成十二年度もご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成12年度前期の

主な行事(予定)

- 4月19日 医科学委員会
- 4月23日 第46回前田杯ソフトテニス大会(中学・一般の部)
- 4月29日 第46回前田杯バレーボール大会(中学の部)
- 5月12日 体育功労者表彰式・評議員会
- 6月21日 第9回スポーツ医科学シンポジウム
- 7月8～9日 第53回高岡市民体育大会(基準日)
- 7月16日 第53回高岡市民体育大会総合開会式
- 8月5～7日 第53回県民体育大会(氷見市)
- 未定 第46回前田杯バレーボール大会(一般の部)

編集◆後◆記

二〇〇〇年を迎え、とやま国体開催年となりました。今回は国体に関する記事を多く取り入れました。

国体成功のために体協・競技団体の連携を一層深め、運営や競技力向上に努めたいものです。そのためにも、情報や話題の提供をお願いします。